



題字 原田 親

No. 489

2006/10/05

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒111-0953
東京都中央区浅草橋2-2-3
日中ビル5F
電話 03(5581)2148(F)
FAX 03(5581)2141
http://www.jcf-jcfc.jp
E-mail:okakuchou@jcf-jcfc.jp
編集 10110-1-2178

日中友好協会
岡山支部
〒719-0034
岡山北区下伊福
西町1-53 民主会館1F
TEL: FAX(086)258-1804

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8031
倉敷市福成町3-2-461-45
TEL: FAX(086)411-7806

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://tzhong.web.infoseek.oc
新・メールアドレス
tzhong86@hotmail.co.jp



今年の目標は七百部

07年カレンダー

「中国悠久の旅」販売始まる

二〇〇七年カレンダーの販売活動が、間もなく始まります。

これまでの3年間、多くのみなさんのご協力で販売部数は順調にのびて、孤児訴訟原告団、訴訟を支える会、日本語教室、協会岡山支部それぞれに財政に大きな寄与をしました。

二〇〇三年・三三五部
二〇〇四年・四六〇部
二〇〇六年・五八〇部
今年、日中倉敷支部の結成、総

社地域での日本語教室の取り組みの前進などから、今年七〇〇部を目標にしています。

この販売活動は、財政面はもちろん中国理解、日中友好の一つとして重視していきたいと思っています。定価は一部、二二〇〇円です。そのうち500円が「孤児」訴訟支援募金にも当てられます。

九月末日には、現物が到着しますので、下記の申し込み先へご連絡ください。

カレンダー購入申し込み先

- *日中友好協会 岡山支部
電・Fax 086-272-3010 (竹内和夫方)
- *日中友好協会 倉敷支部
電・Fax 086-446-2711 (宮地義男方)
- *総社日本語教室 事務局
電・Fax 0866-99-2560 (西森文子方)
- *中国「残留孤児」訴訟を支える岡山県民の会
電・Fax 086-277-2470 (小林軍治方)



倉敷市議会の傍聴に参加した人たち

倉敷市議会で質問 「残留」孤児問題で大本市議

9月21日、日本共産党の大本市議が、議会で「中国「残留」日本人孤児の人権を守るために」と題して、概要次のような質問をしました。

市議はまず、岡山県のホームページを引用し、国や県が「中国「残留」邦人及びその家族が帰国後、生活習慣、言葉の相違(日本語が充分話せない)などから日本社会に定着していく上で、色々な困難に遭遇しています。そこで、自立支援のために、日本語講座の開設などの支援を行なっています」と記述していることを紹介しました。

続いて岡山市では中国帰国者の日本語教室・岡山の会により日本語教

室が始まり、教育委員会が講師謝礼金や経費などを一部助成していると述べました。

そして最後に倉敷市粒江団地で9月2日より日本語教室が開講したことを報告し、倉敷市でも岡山市同様の助成を」と訴えました。

中山教育次長は「岡山市の状況は、人権教育推進室から聞いています。今後本市でも検討していきたい」と答弁しました。

大本市議は、再質問で「前向きに検討すると理解している。希望を持っている」と、教育委員会に念を押しました。

倉敷市議会の傍聴には、粒江の日本語教室より受講者の鴨井さんと湯口さん、講師の宮地・山縣さんの両氏と、岡山から小生が参加しました。

2時間の楽しい時間・・・

日中・岡山の中国語講座講師として

張 鳳琴

日本に来て六年目になり、中国語を教える経験も何回もありました。これらの経験で一番印象深いのは、日中友好協会岡山支部・中国語講座の受講生たちの学習意欲が最も高いことでした。

教えているほかの方々はもちろん授業を真面目に聞いていますが、それ以外に予習や復習をほとんどしていない、中国語のレベルがなかなか上がらないでいることでした。

予習と復習以外に外国語の勉強に対しては、単語や文法の暗記をし、大きな声で発音する、そしてよく聞いて考えることも大切です。

私はこのクラスで、こんなことを強く感じました。

私はこのクラスの教師になって今日で五ヶ月になり、皆さんの中国語レベルがすごく高まっていることを実感しています。それは、前述したポイントの議会傍聴には、粒江の日本語教室より受講者の鴨井さんと湯口さん、講師の宮地・山縣さんの両氏と、岡山から小生が参加しました。

傍聴後市議団の控室で、今後岡山の経験をもとに、倉敷市教育委員会と話し合いを持って、来年度から助成がいただけるよう努力をしよう」と確認しました。

なお、大本市議は、質問を考える上で日中友好新聞「おかやま」を参考にしたいといわれました。

(小林)

研究誌《季刊中国》

季刊中国は中国をテーマの中心として、各分野の研究者・著名人や運動家から寄せられた論文・レポートなどを掲載した研究誌です。購読をお奨めします。定価：630円(送料は別)お申し込みは：岡山支部へ

次回の新聞発送作業は10月11日(水)午後1時半、民主会館2階で行ないます。前回お手伝い下さった方です。

- 小林 澤山
- 竹内 和
- 竹内 袈
- 坪井 服部
- 三垣

2007年カレンダー 中国悠久の旅

B3判(縦515mm×横364mm) 13枚綴り
定価 1,200円(税込・送料別)

このカレンダーの収益の一部は「中国残留孤児の人権回復を求め、国家賠償請求訴訟」の支援基金に充てられます。

2月/中山広場 3月/開平 4月/布達宮 5月/元陽 7月/北極木塔
8月/ベゼクリク千仏洞 9月/五箇亭 10月/天壇 11月/鎮江古城 12月/瀋陽故宮

置き去りにされた日本人

中国「残留」日本人孤児問題を考える集会

2004年2月20日、岡山県、香川県に住む中国 残留日本人孤児が、岡山地方裁判所に国賠訴訟を起こしました。

太平洋戦争終了前後、国により、主に中国東北部（満州）に棄てられ、両親とも生き別れて、かろうじて中国で生きながらえた、いわゆる中国 残留孤児達。

祖国日本の地で、日本人として人間らしく生きる権利の実現を求めています。

一人でも多くの方に、中国残留孤児問題について知っていただきたく、集会を開催することになりました。どうか大勢の皆様がご参加くださいますようお願いいたします。

日本人として、人間らしく生きる権利を

中国 残留孤児訴訟は、2002年12月、東京地裁に提訴したのを皮切りに、現在、全国15地域で争われています。

孤児が中国に 残留せざるを得なくなった状況を作ったのは国です。しかし国は、1958年の集団帰国打ち切り後、孤児の帰国を実現しようとはせず、それどころか孤児の帰国を妨げました。

また、日本に戻った孤児達は、日本語にも日本の文化にもなじみがないため、自力で自立する条件を持つていなかったのですが、有効な支援を行わず、場当たり的な対応に終始しました。その結果として、現在、老境を迎えた孤児は、不安な日々を送っています。

- 1932年 「満州国建国」
- 1945年8月9日 ソ連軍「満州」へ侵攻 悲惨な逃避行が始まる
- 1956年 集団帰国打ち切り、残留邦人は帰国の途を絶たれる
- 1959年 未帰還者特別処置法 厚生大臣が、未帰還者に死亡宣告を申し立てることが出来る制度（戦時死亡宣告）を創設。これにより、多くの「孤児」が、戸籍上死亡とされた
- 1972年 日中国交回復 国は「孤児」を外国人として扱い始め、帰国に身元保証人を要求
- 1981年 ようやく、訪日調査が始まる
- 1984年 定着促進センター開所
- 1985年 身元未判明孤児に身元引受人制度創設・・・ようやく帰国の道が開かれる

国に責任を認めさせ、孤児達が、日本人として人間らしく生きる権利を取り戻すことが、裁判の目的です。

‘06年10月22日（日）

午後1時30分より 参加費は無料

会場 **さん太ホール**

岡山市柳町2-1-1（山陽新聞社本社ビル）

<プログラム> (予定)

講演 **日高一氏**（「間島の夕映え」著者）

中国「残留」日本人孤児の訴え ほか

姜波先生による中国事情 ⑫ 伝統漢方薬の近代化を目指せ

中国は経済改革が実行されて、20余年の歳月が流れた。その間、金融、鉄鋼、通信、家電、自動車、建築、養殖業など各分野において著しく成長してきた。しかし本家本元の漢方薬はそうでもないようだ。

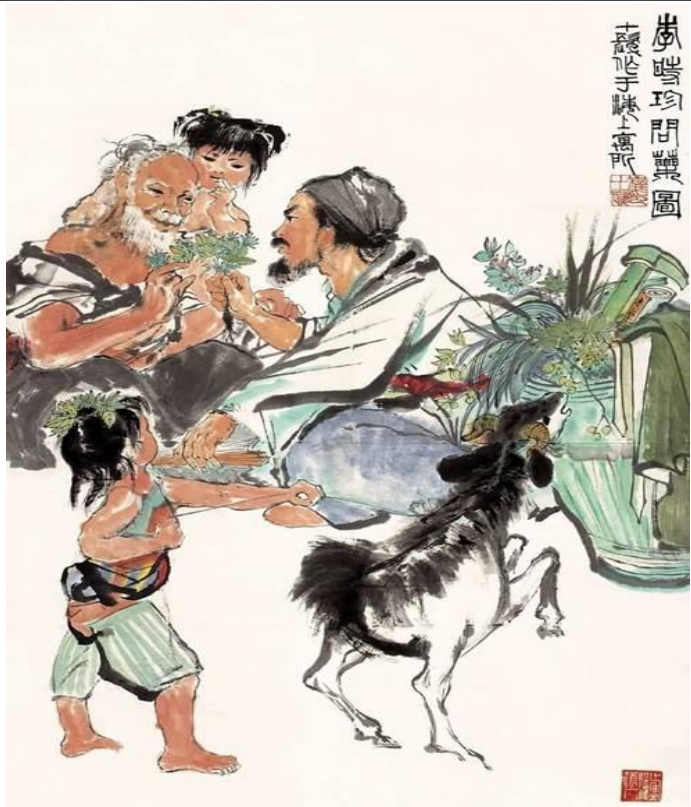
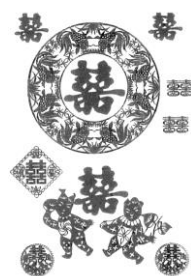
陝西省科学院の調査によると、2003年まで国際市場において漢方薬の消費額は凡そ160億ドルとされている。漢方薬の主な生産国として日本は80%と最も多く、次は韓国で10%、中国は5%と3カ国中最下位となっている。一方、中国が輸入した外国の漢方薬は国内の薬品市場の20%を占める。これは漢方薬の生産では、中国は他国にかなり遅れを取っているため、漢方薬をこよなく愛

用してきた中国人は良質な外国漢方に目を向けるようになり、輸入量を拡大していることを示している。例を挙げて見ると、日本のある製薬会社が生産した救心丹（狭心症・不整脈発作に有効）は03年中国での売り上げは1億ドルに達している。その他、川貝枇杷膏（咳止め）、保心安油（救心薬・駆風油・紅花油・痛み止め外用薬）などの輸入漢方薬は種類も増え、中国マーケットでのシェアを拡大し、伝統的な中国漢方薬業界は激しい競争にさらされている。

中国漢方薬の問題点は、どこにあるのか。その製造過程における技術、設備状況に着眼したい。外国産の漢方薬の製造過程において

では先端技術が導入され、薬の有用成分が抽出され、純度も高められたために、ある程度の副作用は避けられないものの、治療効果も抜群だし、品質も安定している。一方、中国の漢方薬は伝統的な製法にとらわれ、不純物が多く、摂取量も多くならざるを得ないために、副作用は比較的小さいものの、じわじわとした治療効果しか期待できない。

設備の面では、本家本元の漢方薬生産は諸外国の70年代のレベルにとどまっているのが現状である。そのため中国漢方薬は、国際市場では競争力が弱い。2003年中国は漢方薬の総輸出額が7億ドルを突破したと言われているが、それは日本の漢方薬輸出額128億ドルと比較したら微々たるものに過ぎず、中国漢方薬の競争力の低さを物語っている。価格はどうかであるのか。韓国産の「高麗人参」の価格は中国産人参の十倍にもなる。中国の場合



は、生産品ではなく、原料の輸出が多く、しかもその対価は驚くほど安い。中国漢方薬のこうした現状に対して、関係者が焦燥感を募らせているのも無理はない。

中国の国家特許局によると、国内製薬メーカーによる漢方薬の特許出願件数は4500件あったが、外国の製薬メーカーが中国で出願した特許件数は1万件にのぼる。しかも外国の申請項目には、バイオテクノロジー、ナノテクノロジーなどのハイテク技術を生かした製薬が目立っている。これでは中国漢方薬の研究も高水準とは言えない。

中国の伝統文化は少なからず近代化の影響を受けてきたが、これまで劣勢に立っていた中国漢方薬も、今後先進的な技法を導入して躍進してほしいものである。

今まで中国政府は、段階的に漢方薬生産の近代化を進めてきてはいる。全国で14の省を漢方薬開発の生産拠点と定め、積極的に技術投資を行い、漢方薬・イテック産業近代化プロジェクト研究を数ヶ所立ち上げ強化している。

これからは成果を出す段階に入ること衛生部副局長が語る。いち早く技術改革を断行した企業は、真空濃縮技術を導入し、中国漢方薬の服用量の縮小と飲みやすさを実現させ、漢方薬の注射液の製造も可能にした。

中国漢方薬の業界では、昔ながらの製法はもはや淘汰すべき時代に入り、やがてハイテク技術に支えられた漢方薬の躍進が始まるだろう。（川崎医療福祉大学教授 社会学）